

## 第3学年1組 国語科学習指導案

3年1組教室 指導者 溝上 剛道

### 1 単元名 登場人物のへんかを読み、『りいこと私の交かん日記』をつくろう（まいごのかぎ」光村図書3年上）

「問題発見・解決能力」が学習指導要領総則に位置づけられ、国語科でもこれまで以上に「問い」を大切にしたい授業が増えてきている。しかし、その導入期においては教師から問いを与え、問いの価値に気付かせていくような授業や、問いを見いだすことばかりに重きが置かれ、その問いを「解決する能力」の育成には至っていない授業も散見される。

本単元では、このような授業を改善するために「学習環境デザイン」を視点として授業に取り組む。具体的には、「問題」を「問い(=question)」と「困り事(=problem)」の2側面から捉え、①問いづくりの経験が少ない子どもが主体的に問いを見いだすことのできる「言語活動の枠組み」と、②「主体的な省察」を促す学習過程、③個々の困り事を生かした「共同体としての学習」に重点を置いて授業を構想する。

その実現のために、本単元では『りいこと私の交かん日記』という言語活動を設定し、読み手としての「私」からりいこへの「お尋ね」と、りいこになりきった「お返事」を繰り返していく学びの文脈を創る。個々の活動に重点を置きつつ、その省察から見いだした困り事の「解決策」を検討する場としての「共同体としての学習」の在り方を探っていく。

### 2 単元について

- (1) 本単元では「まいごのかぎ」を学習材として取り上げ、様子や行動、気持ちを表す語彙に着目しながら、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像する力の育成をねらう。

本学習材は、中心人物りいこに不思議な出来事が起こるファンタジー作品である。不思議な出来事によって揺れ動きりいこの気持ちが、様子や行動、気持ちを表す多様な語彙によって表現されており、気持ちの変化を捉える力を育むのに適した学習材といえる。

そのような特徴をもつ作品であることから、子どもたちは多様な感想や疑問をもつだろう。特に「なぜ？」が多く出ることが予想されるが、その「なぜ」の内実を紐解くと、「ファンタジー構造に着目したもの」「人物の行動や気持ちに着目したもの」の二つに大別できる。例えば前者は「なぜ不思議な出来事が起こるのか」、後者は「なぜ〇〇したのか」などである。本単元では、「気持ちの変化」に焦点化するために、『りいこと私の交かん日記』という言語活動を設定する。その活動に取り組む中で様子や行動、気持ちを表す言葉に着目している姿や、場面の移り変わり結び付けて気持ちの変化を想像している姿を価値づけながら、子どもが働かせた言葉による見方・考え方を自覚できるような学びを生み出していく。

- (2) 子どもたちはこれまでに「きつつきの商売」を学習材とした単元『おとやのチラシをつくろう』において、場面の様子や登場人物の気持ちを捉える「構造と内容の把握」の力をつけてきている。本単元で、気持ちの変化を具体的に想像していく「精査・解釈」を中心とした学習は、「ちいちゃんのかげおくり」で物語の出来事を自分なりに捉え、感想をもつ「考えの形成」を重点とした学習につながっていく。

- (3) 本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。(調査人数：36人)

- ① ほぼ全員が、概ね語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。ただし、文章の内容の大体を意識しながら音読することに関しては、時間を要する子どもが5名ほどいる。
- ② 登場人物の気持ちを、行動描写に着目して想像できている子どもは、全体の半分程度いるが、自覚的に見方・考え方を働かせている子どもはまだ少ない。

(4) 指導にあたっての留意点は、次の通りである。

- ① 単元導入では、作品に対する「不思議」「なんで？」というつぶやきを取り上げて「りいこに聞きたいこと」を問うことで、一人一人が登場人物の行動や気持ちに着目した問いをもつことができるようにする。その上で、その問いの解決をどんな言語活動で表現していくかについて子どもと教師でやり取りをしながら、『交かん日記』の枠組みをつくっていく。
- ② 『交かん日記』は、自分からりいこに聞きたいことを書く「りいこちゃんへ」と、りいこからの返事「〇〇くん・ちゃんへ」（りいこになりきって書く）で構成する。既習作品「わたしはおねえさん」（2年）を基にモデルを提示し、「りいこちゃんへ」には、問いだけでなく、どうしてそれを聞きたいと思ったかまで書くことを共有しておくことで、既習の「自分と重ねて読む」という力を活用しやすくする。
- ③ 第二次前半は、個人やペア・グループで交換日記を作っていく時間を十分に確保する。その中で表出する「なかなか書けない」という困り事を取り上げ、「どうすれば解決できそうか」を全体で考える場を設ける。その中で、「劇をしてみる」「『自分だったら』で考える」など、活動への取り組み方を共有することで、全員が解決方法の選択肢をもち、試しながら自分に合ったものを見つけていけるようにする。
- ④ 第二次中盤から後半にかけて、それまでつくってきた交換日記を読み返す時間を設ける。その際、「お返事は書けたけど、みんなの考えも聞いてみたい」「自分の考えに納得いかない」という思いを取り上げ、全体で検討する場を設定していく。
- ⑤ 本時前半は、結びの一文に着目した問いの解決に納得がいかない子どもを取り上げ、それらの困り事を共有した上で、これまで見いだしてきた解決策をどのように使えば解決できそうかについて検討する場を設ける。後半は各グループでそれらの解決策を試す場を設定し、全体で検討した解決策を個々の課題解決に生かして。

### 3 単元の目標

- (1) 様子や行動，気持ちを表す語句の量を増し，語彙を豊かにすることができる。
- (2) 登場人物の気持ちの変化について，場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。

### 4 指導計画（7時間取り扱い）

学習活動	主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援	時間
1 単元の見通しをもつ。	○ 一人一人が考えた「りいこに聞きたいこと」を「行動の理由」「気持ちの変化」などの視点で価値づけながら，言語活動『りいここと私の交かん日記』を設定していく。	2
2『りいここと私の交かん日記』をつくる。	○ 活動に取り組む中で表出する困り事を取り上げながら，それらの解決方法を全体で考える場を設定する。 ○ ある程度交換日記が書けた時点で，それを読み返す時間を設ける。その際，単元の課題に立ち返らせ，より人物の変化が表れたものにするために見直したいところを問う。	本時 3 4
3『交かん日記』を仕上げ，単元を振り返る。	○ 「海をかつとばせ」（平成27年度版3年上）を活用した適用課題（『交かん日記』に取り組ませ，単元で身に付けた力を振り返れるようにする。	1

5 本時の学習

(1) 目標

りいこが手を振り続けた理由を捉えるための解決策について話し合う活動を通して、場面の移り変わりと結び付けて気持ちの変化を想像し、『交かん日記』を再考することができる。

(2) 展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
8	1 前時までにつくってきた『交かん日記』を振り返り、本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前回までで、りいこからのお返事もだいぶ書けるようになってきたね。</li> <li>○ だけど、最後の手を振り続けた理由のところは書いていません。</li> <li>○ 私は書いてはいるけど、まだ自分の考えに納得していません。</li> </ul>
17	2 りいこが手を振り続けた理由を捉えるための解決策について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまで見つけてきたコツを使えば、りいこちゃんの気持ちを想像できるんじゃないかな。</li> <li>○ 「げきをする」だったら、バスが遠ざかっていくのを見ながら手を振るところをやってみるといいんじゃないかな。</li> <li>○ 挿絵は後ろ姿だけど、りいこはどんな表情だったんだろう。</li> <li>○ すっきりした顔だったんじゃないかな。初めのしょんぼりした顔から大きく変わっているね。</li> <li>○ 前に〇〇くんが「前後の3行くらいを読んでつながりを考える」って書いていたけど、一番最初のところとも繋がりそうだね。</li> <li>○ 初めだけじゃなくて、途中の場面も繋がりそうじゃない？その部分も入れて、交かん日記が書き換えられそうだね。</li> </ul>
15	3 各グループで解決策を試しながら、りいこの気持ちの変化について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 頭の中から消えてしまったうさぎがもう一度出てきたのは、りいこが「はっと気づいたのです。」の後だよ。ここも関係あるんじゃないかな。</li> <li>○ だとすると、「あのさくらの木も…」「ベンチも…」「あじだって…」「みんなも…」と書かれているから、全部の場面が繋がってきそうだよ。</li> <li>○ よし、そのことを交かん日記に書いてみよう。</li> <li>○ 今日一番学んだことは何かな。</li> </ul>
5	4 本時の学習を振り返り、国語日記を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私は、国語日記の題名を「全部つながっていた！」にしよう。</li> <li>○ 僕は「最初と最後で大きくへんか」を題名にしよう。今日は、交かん日記の文までは書いていないけど、次回の仕上げでりいこの変化した気持ちをお返しのところに書きたいな。</li> </ul>



子どもたちは、これまで『りいこと私の交かん日記』を書きながら、自分からりいこにお尋ねしたり、りいこになりきって返事を書いたりする活動に取り組んできています。本時では、その中で生じた困り事や自分の考えに納得できない思いを取り上げ、解決策を検討する学びを生み出していきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出すための教師の支援（発問・指示、教材・教具、評価）

- 結びの一文「りいこは、夕日にそまりだした空の中で、いつまでも、その手をふりつづけていました。」に着目した問いを立てている子どもの中から、その問いが解決できていなかったり、交かん日記にその答えを書けてはいるものの、その内容に納得がいていなかったりしている振り返りを取り上げる。それらの困り事を共有した上で、これまで見いだしてきた問いの解決策（コツ）に立ち返らせ、次のような課題を設定する。

うさぎにいつまでも手をふりつづけたわけは、コツをどう使えばわかるだろう。

- 「げきをしてみる」「音読する」などの解決策に関する発言に対しては、「学びの足跡」を基に「場面を絞って劇をする」というコツを想起させることで、物語のどの部分を劇で表現すると問いの解決につながりそうかを検討することへとつなげていく。その際、場面分けで認識のずれがある場合は、そのずれを取り上げて話し合わせ、場面の移り変わりへの着目を促す。
- 「物語のどの部分の劇をするか（音読をするか）」を検討する中で、「前後の文とつなげる」という解決策を使って、各場面での出来事や行動と関連付けた発言が出ることが予想される。その際「○行目の…」のように具体的な叙述を挙げながら考えを述べている姿を捉え、本当にその部分は「いつまでも手を振り続けたこと」とつながるのかを全体に問い返す。
- 上記の問い返しに対して「つながる。だって…」と語り出した言葉を板書していく。その際、挿絵と行番号でどこと結び付けているかを明示していくことで、場面の移り変わりと結び付けながら考えられるようにする。
- 全体で解決策についての話し合う際には、出された考えとともに発言者の名前も板書しておく。その上で、グループでの活動に移った際、どんな方法で解決していくかで迷っているグループにはその板書に立ち返らせ、「誰の考えが使える？」と問いかけることで、その際の発言を想起しながら、それらを選択肢として考えられるようにする。
- 問いの解決策（コツ）をどう使うかについて、いくつかの考えが出されたところで、各グループで実際にその解決策を試す場を設ける。その中で、「わかった」「そうか」などのつぶやきを見取り、全体で価値づけることで、本時の学習の振り返りへとつなげる。
- 振り返りとして「国語日記」を書く時間を設ける。国語日記は、「題名＋『私』を主語とした日記形式での振り返り」で構成し、その日印象に残ったことや新たに見いだしたことなどを題名とすることを事前に共有しておく。その上で、初めに、「どんな題名で日記を書くつもりか」を問い、数名に発表させながら、振り返りの視点を共有していく。
- どんな問いの解決策を使ったか、それによって何が明らかになったかを記述できている子どもを見取って価値づけ、これまで集めてきた解決策をより具体化したり、新たな解決策を共有したりできるようにする。

#### 【教材・教具】

- 学びの足跡（コツカード）
- 挿絵
- 拡大教材文

#### 【評価】

場面の移り変わりと結び付けて気持ちの変化を想像し、『交かん日記』を再考することができる。  
(交かん日記、振り返り)